

## 授 業

### 目次

要 約	目録代り表・目録代り表	2
はじめに		4
1. 授業の全体像		5
● 授業の位置		5
● 教科での比較		7
● 授業の好き嫌い		8
2. 授業内容をめぐって		11
● 授業内容の好き嫌い		11
● 授業での経験		14
● 子どもの好きな授業形態		16
● 授業への姿勢		17
3. 授業の周辺		20
● クラス・教室の様子		20
● 先生と自分		22
4. 教師と授業とのかかわり		25
● 担任の授業の評価		25
● 担任の性差・年代差の影響		32
● 授業のうまい教師の評価		34
まとめに代えて		40
地球社会の子どもたち ① アメリカーその1 RAINBOW SONG	深谷昌志	41
資料1 調査票見本		46
資料2 学年・性別集計表		56

※おことわり：本文中に使用した写真は、本文・テーマとは一切関係ありません。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>					
<input type="checkbox"/>	調	査	レ	ポ	ー	ト	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	授	業	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	要	約					<input type="checkbox"/>

放送大学教授 深谷昌志  
横浜市立鳥が丘小学校教諭 戸塚 智

### 1. 得意な科目・嫌いな科目

楽しいのは体育と図工で、苦手なのは算数と社会科。(表1)



### 2. 好きな授業形態

国語は図書室などでの読書、算数は図形を切ったり書いたりする授業、社会科はOHPなど、好きな授業形態は一斉授業でないもの。(図5、図8)

### 3. 授業で夢中になったこと

体育の運動や図工の作品作り、理科の実験などで夢中になったことがある。(図7)



### 4. 担任の人柄

明るくて、たくさんの知識をもっている。(表3)

#### ●調査概要

1. 調査主題 授業
2. 調査視点 授業は、子どもたちの学校での生活時間の大半を占めている。子どもたちは授業を、そして授業中のクラスや担任の様子

- をどのように捉えているのかを探ってみる。
3. 調査項目 好きな授業内容、授業中のできごと、教室の様子、クラス担任について(人柄や授業中の様子、生徒たちとの接し方)、授業を受けるときに注意していること、など。

## 5. 担任の授業

印象的なのはよくテストをすることと、ノートに赤ペンで書いてくれること。(図19)



## 6. 中学校の授業

授業がむずかしくなる、予習や復習が必要になるだろう。(図11)

## 7. 今のクラスになってよかったか

「わりと」の34%を含めて「よかった」が70%で、「よくなかった」という子も少なくない。(図12)



## 8. 担任の年齢と授業

若い先生への評価は決して悪くはない。しかし板書の字のうまさや習字の手本を書いてくれるなどは、ベテラン教師の方が評判がよい。(表7)

## 提言

子どもたちに人気のある授業形態は、子どもたちが活動するスタイルのもので、一斉授業の評判はよくなかった。もちろん、一斉授業をせざるをえない場合もあろうが、教師にとって一斉授業はもっともやりやす

い授業形態であろう。そのため、ともすると一斉授業を重ねがちになる。しかし、多少の教材準備が必要であったり、手間暇がかかるにしても、もう少しさまざまなスタイルの授業を展開するようがんばってほしいと思った。

4. 調査時期 昭和63年1月～2月  
5. 調査対象 東京、千葉、神奈川の小学5・6年生  
6. 調査方法 学校通しによる質問紙調査

7. サンプル数 (人)

学年/性	男子	女子	計
5年	237	219	456
6年	208	172	380
計	445	391	836



## はじめに

教師の間では「授業で勝負する教師」という言葉が強いインパクトをもって存在している。つまり、何よりもまず日々の「授業」を通して子どもたちを納得させ、尊敬される教師でなければならないということであろう。もっとつきつめて言えば「授業」のうまい教師が「いい教師」ということになる。

そのせいか、日本のどの学校でも、校内研究とか重点研究とかという名目で、「授業」を中心にすえた研究が大はやりである。たしかにこれは教師にとっても、子どもたちにとっても大変よいことに違いない。しかし、とすると常に教師サイドの観点からの研究に陥りやすく、子どもサイドからの見方が不在になりかねない。まして、その研究の成果がはっきりしないままに完結してしまうことも少なくない。常に子どもを評価する側の教師が、授業を通じて子どもに評価してもらった場合は、どうであろうか。

そのような前提をもとに、子どもの目から見た教師の「授業」の様子や、楽しさ、経験などを探ろうとしたのがこの調査レポートである。調査対象は、小学5、6年生の男女。調査時期は、昭和63年1月～2月であった。以下、その調査データを紹介していくことにしよう。

# 1. 授業の全体像

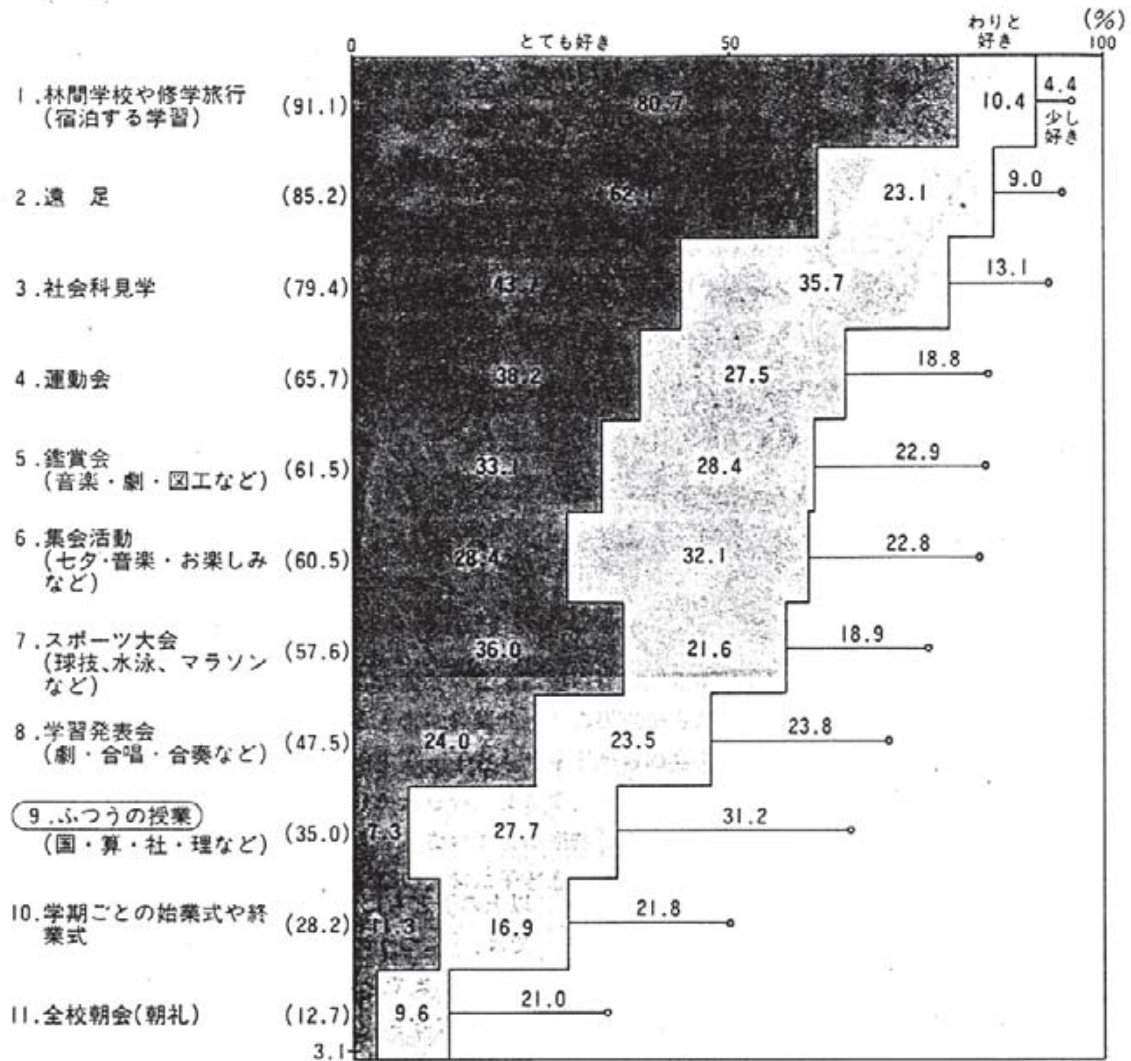


## 授業の位置

まず、学校生活における授業の位置づけをしておこう。図1は、学校生活におけるさまざまな行事や儀式、集会などの特別活動がどのくらい好きであるかを、子どもたちにたずねた結果である。予想通り、「林間学校や修学旅行」「遠足」は、子どもたちにとって年に一度か二度のビッグイベントであるだけに「とても+わりと」好きまでを含めて、かなり高い数値となって表れている。「社会科見学」や「運動会」、「鑑賞会」や「七夕などの特別集会」も「少し好き」までを含めて8割

以上の子どもに好かれていることがわかる。では、「ふつうの授業」はどうであろう。「少し好き」までを含めると7割近くに達するが、「とても好き」と答えた子はわずかに7%で、現実的にあまり好かれていないといえよう。「始業式や終業式」「全校朝会」などのような儀式的な色あいの強いものは、特に子どもたちの不人気をかっている様子がうかがえ、今後、教師サイドの一層の工夫・努力が、このような行事・儀式等に必要であるといえよう。

図1 行事・儀式・特別活動などの好き嫌い



( )内の数値は「とても+わりと」好きの割合

## 教科での比較

次に、子どもたちが各教科に対してどのような気持ちをもっているかを示したのが、表1の教科イメージである。それぞれの項目で20%以上の割合を示した教科に○印をつけておいたが、やはり算数は、小学校における教科の王様という感があり、授業中さほど楽しくはないが、先生はとて熱心に教えてくれる。しかも、成績がよいと一番うれしいし、おとなになっても一番役立つ教科という認識である。そのせいか、親も子も過剰なほど算数の成績やテストの点を意識するので、得意

な子と苦手な子の二層に分極している感じがする。社会や国語についても、算数ほどではないにしろ、同様に子どもたちから充分意識されている様子が読みとれる。しかし、苦手意識も強く、授業中楽しいとは思われていない傾向が得られている。全体的には、国語や算数などの主要教科への強いこだわりの意識が目立つ結果である。そうした教科とは逆に、体育や図工は楽しく得意な割合が高いので、子どもたちから好意的に受け取られている状況が読みとれよう。

表1 教科イメージ

(%)

	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育
1. 一番得意な教科	9.3	9.0	<u>18.5</u>	6.3	<u>11.1</u>	<u>13.5</u>	4.1	<u>28.2</u>
2. 一番苦手な教科	<u>10.8</u>	<u>20.3</u>	<u>25.0</u>	6.7	<u>12.7</u>	6.4	9.6	8.5
3. おとなになって、一番役に立つ教科	<u>24.3</u>	<u>22.3</u>	<u>32.8</u>	1.7	1.1	0.8	<u>14.1</u>	2.9
4. 成績がよいと一番うれしい教科	<u>17.2</u>	<u>10.8</u>	<u>46.3</u>	3.1	5.9	4.0	2.6	<u>10.1</u>
5. 先生が一番熱心に教えてくれる教科	<u>17.6</u>	<u>12.4</u>	<u>49.0</u>	6.6	3.5	2.1	2.7	6.1
6. 授業中、一番楽しい教科	4.0	6.7	8.7	7.9	8.3	<u>23.8</u>	6.0	<u>34.6</u>

○印は、20%以上の教科につけた。  
 (~~~~印は、10%以上の教科)

## 授業の好き嫌い

では、各教科の好き嫌いの順位は、どうなっているのであろう。図2は、8教科の好きな割合を示してある。体育をはじめ、図工や家庭科などの主要教科以外の教科が上位に連なっており、子どもたちからの人気の高さを物語っている。「とても好き」だけの割合で見ると、国語(10.1%)、社会(13.6%)、理科(17.7%)、算数(18.0%)の順に、主要4教科の不人気がよくわかる結果である。言うならば、作業・活動型の教科の人気が高く、知識・理解などを含めた思考中心の教科は、

あまり人気がないように見える。さらにこれを性別、学年別に示したのが図3、図4である。体育・理科・社会は男子に、家庭科・音楽・国語は女子に人気が高い。そして、6年生になると、5年生に比べてどの教科の勉強も、好きな割合が低下しており、授業に対する否定的な面が目立ってくる。そう言えば、6年生の担任が、5年生に比べて、学習面や生活面でのやりづらさをよく語っており、そのような状況の一端がうかがえる結果である。

図2 教科の好き嫌い

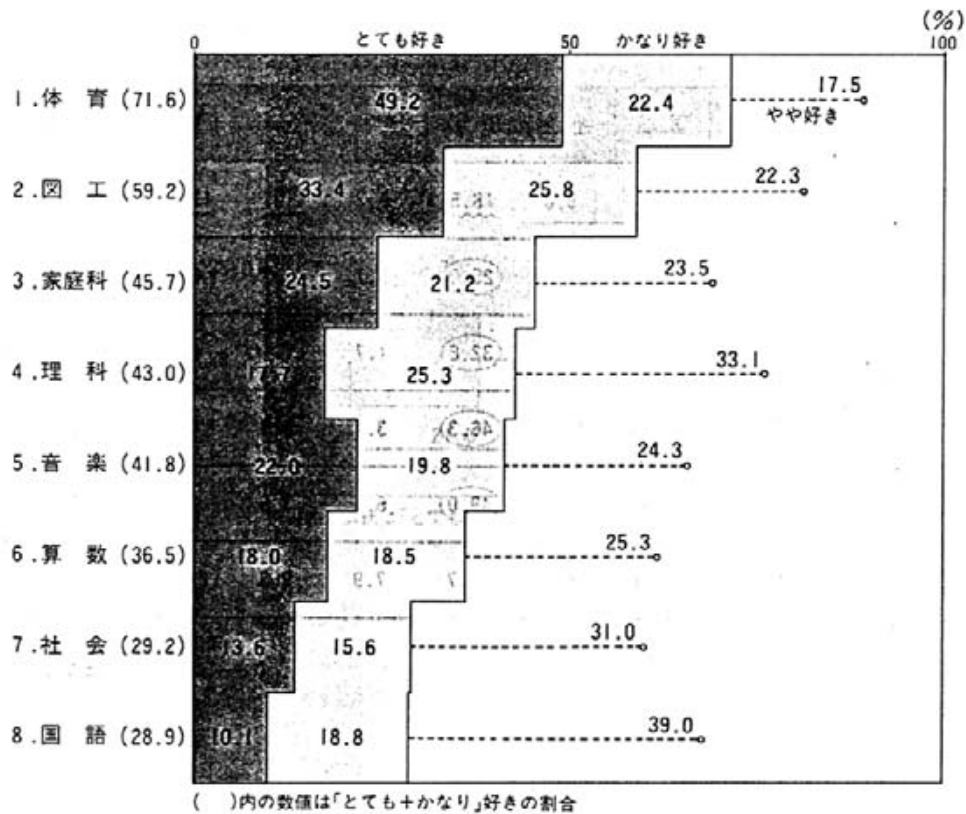




図3 好きな教科(性別)

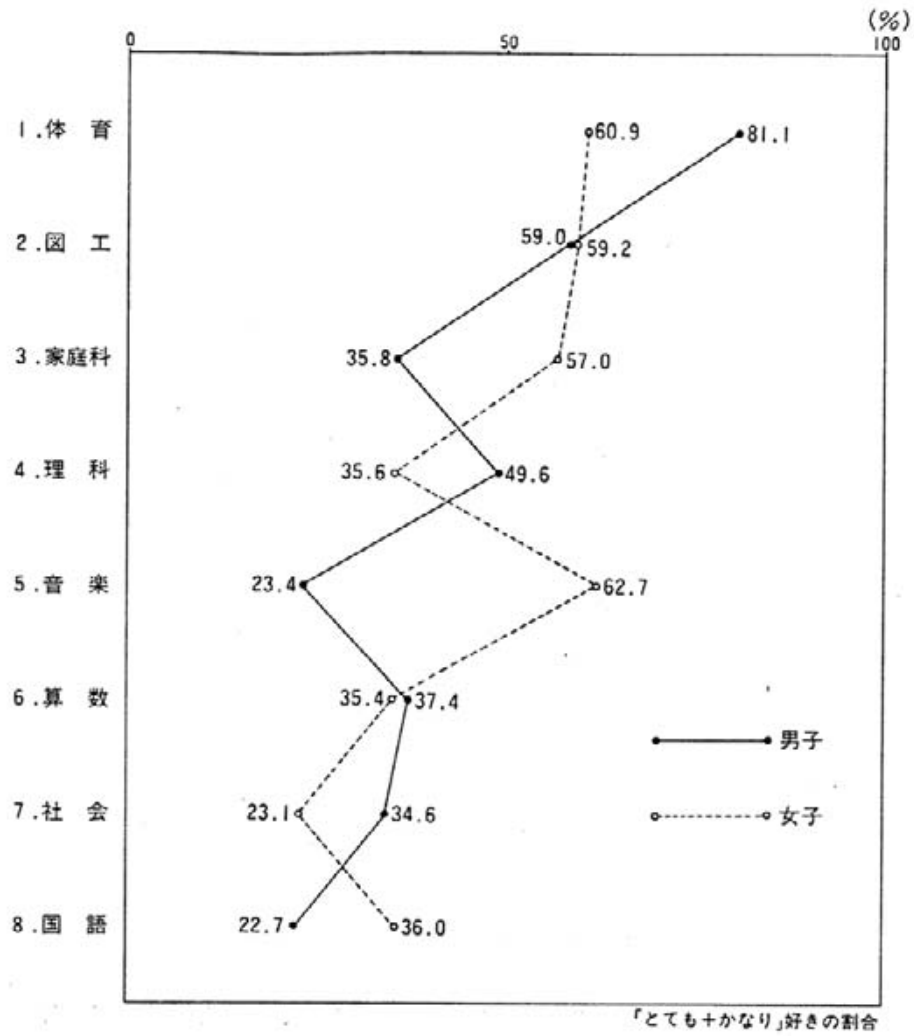
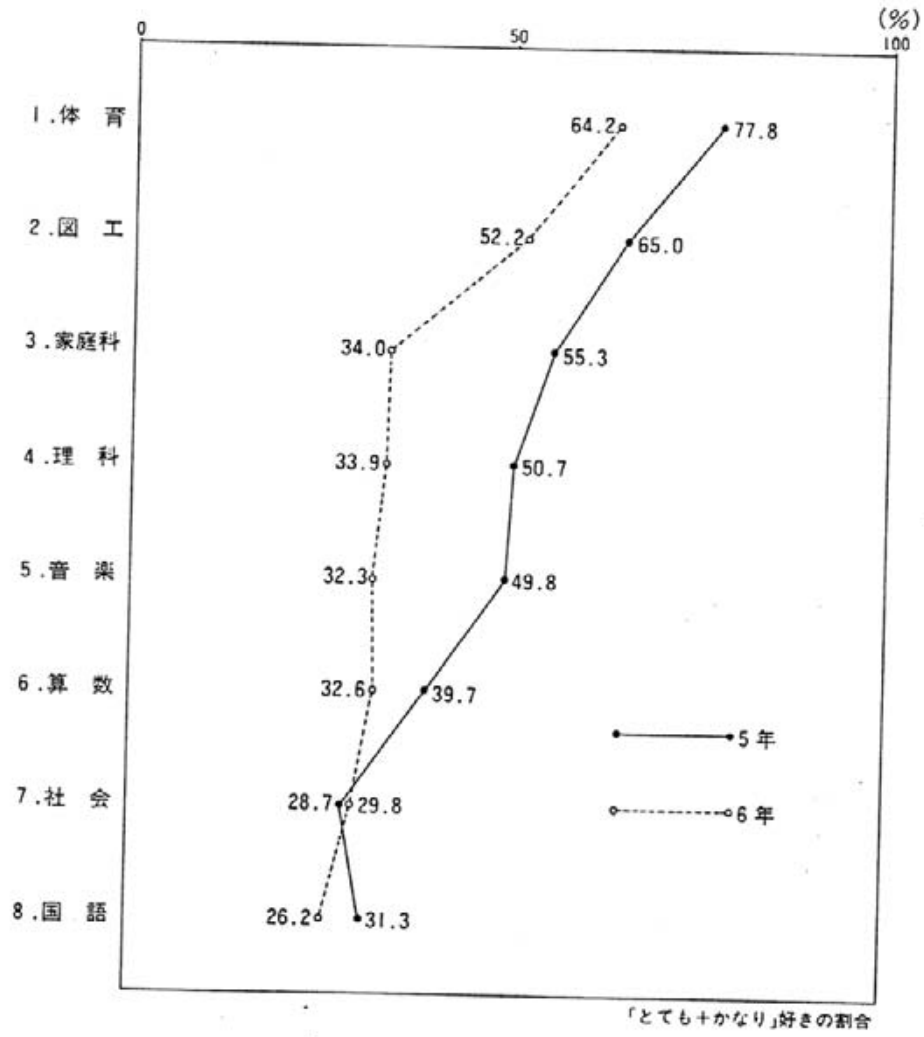


図4 好きな教科(学年別)



## 2. 授業内容をめぐって



### 授業内容の好き嫌い

学校生活における授業の位置づけやイメージ等をはっきりさせたところで、今度は各教科の授業内容について見ていくことにしたい。図5の①～④は、主要4教科(国・算・社・理)の授業内容の好き嫌いをたずねた結果である。

それぞれの教科ごとに見ていくと、①国語では、断然「読書の時間」の人气が高く、週1時間程度の図書の時間を心まちにしている姿がうかがえる。②算数では、「図形」や「グラフ」に関する授業の人气が高く、「計算やドリル」「文章問題」などを中心とした授業は嫌われている。③社会科は「テレビ・スライド・OHPなどを利用した」授業や「見学する」授業が好まれており、「グループ学習」に対する評価もそれほど悪くはない。④理科はなんといっても「理科室での実験」と「現地へ出かけていっての見学」の人气が高い。

加えて、「テレビやスライドを見る」のも「観察中心」の授業も「生きものを育てる」授業も比較的好まれていることがわかる。そして、①～④の教科を通して気がつくことは、どの教科も「先生の説明で、教科書中心に進めていく授業」に人气がない事実であろう。授業といえば、ごく一般的には講義式の形態となろうから、新鮮さの欠けたマンネリズムの連続で、こうした授業を続けていけば当然このような結果を招こう。それにしても、講義式は子どもたちにとってはあまり満足できない授業形態といえよう。しかし、比率的にいえばこのような授業の比率が高いから、このごく普通の授業をいかにうまくするかが、教師の力量ということになるのであろう。それだけに、今後子どもサイドに立った見地から、一層の研究・開発の余地が、この授業形態に残されているといえよう。

図5 授業内容の好き嫌い

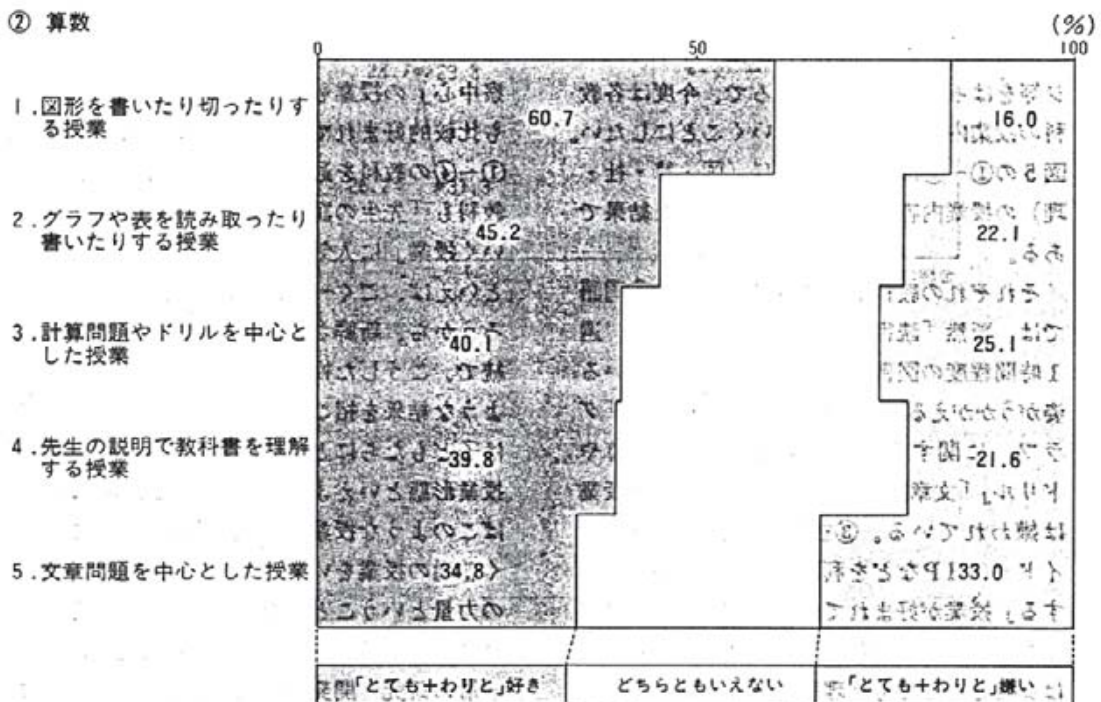
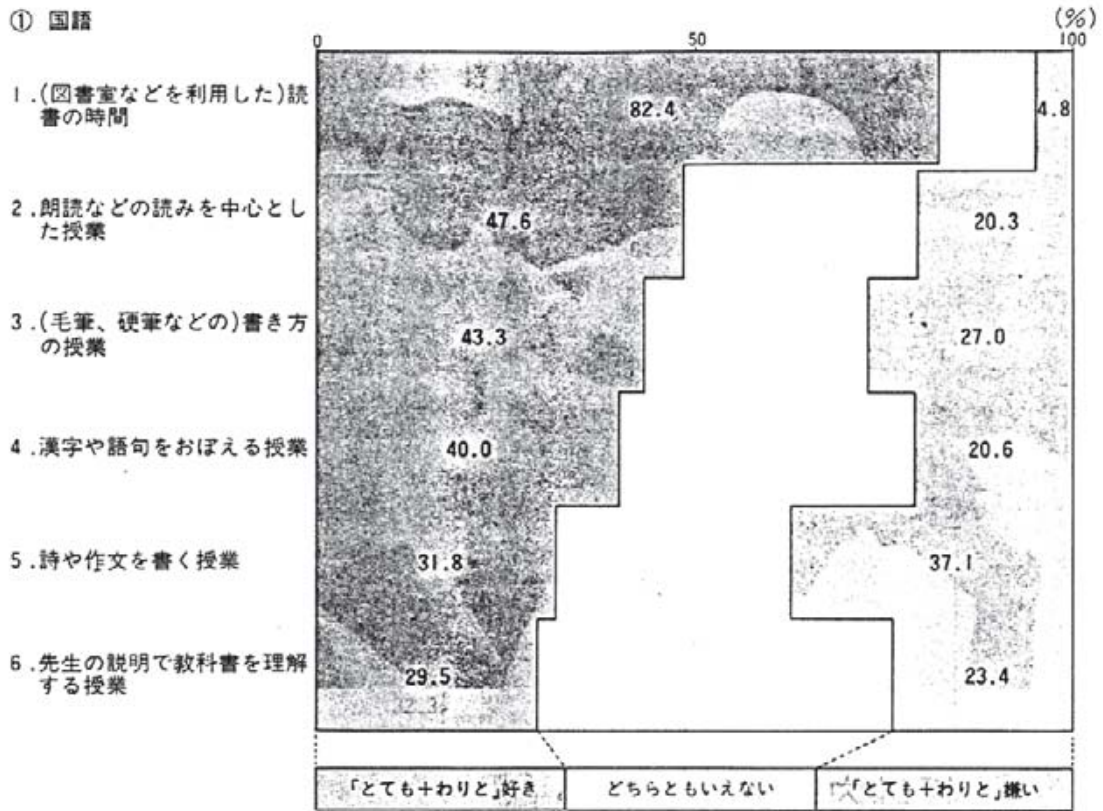
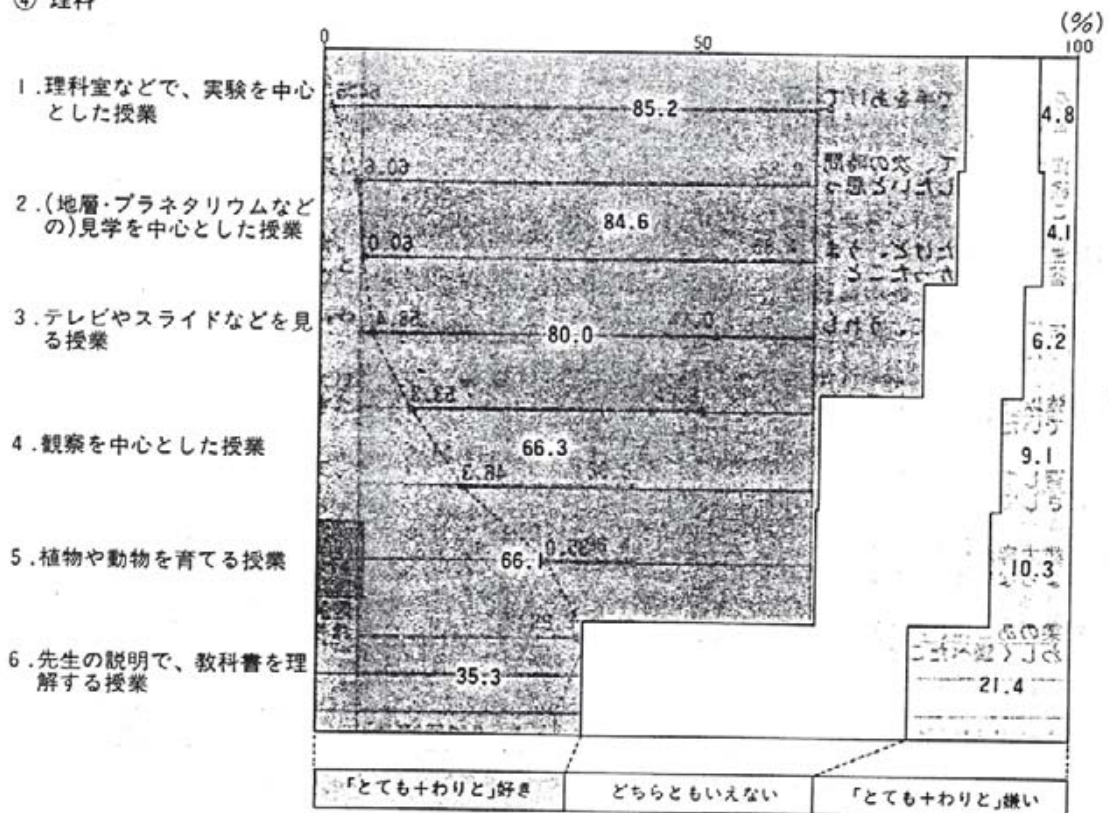


図5 授業内容の好き嫌い

③ 社会科



④ 理科

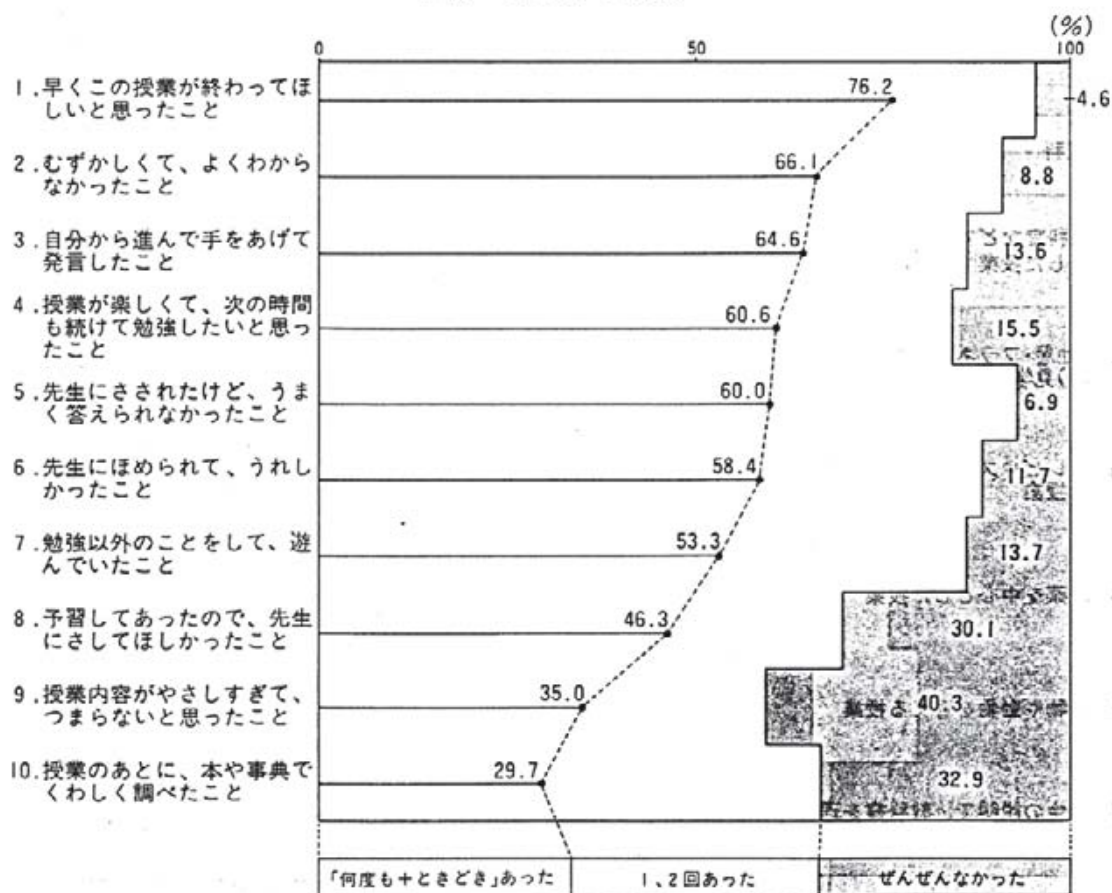


## 授業での経験

授業は、さまざまな要素が重なりあって成立している。例えば、子どものレディネス、クラス集団の実態、クラスの数、教室の環境、子どもひとりひとりの個性や能力、それに教師の手柄や力量、教材とその取り扱い方、達成目標など、あげればきりがなし。そうした多種のファクターが影響しあった中で、教師は子どもとの関係を明確に保ちながら、授業を立派に成立させていかなければならない。考えてみると、このような状況の中で、完璧

な授業などはないし、どれが最善であるかもはっきりしない。まして、ごく一般的な小学校の教師には、失敗・成功に関係なく、同じ授業のくり返しはゆるぎのないのであるから、十分な教材研究や準備もできないまま、ひとつひとつの授業を手さぐりしながら実践し、40人もの子どもたちと日々勝負していくことになる。そうした条件の下では、クラス全員の子どもの十分な満足感や新鮮な感動を与えることなど不可能に近い。しかし現実には、

図6 授業中の経験



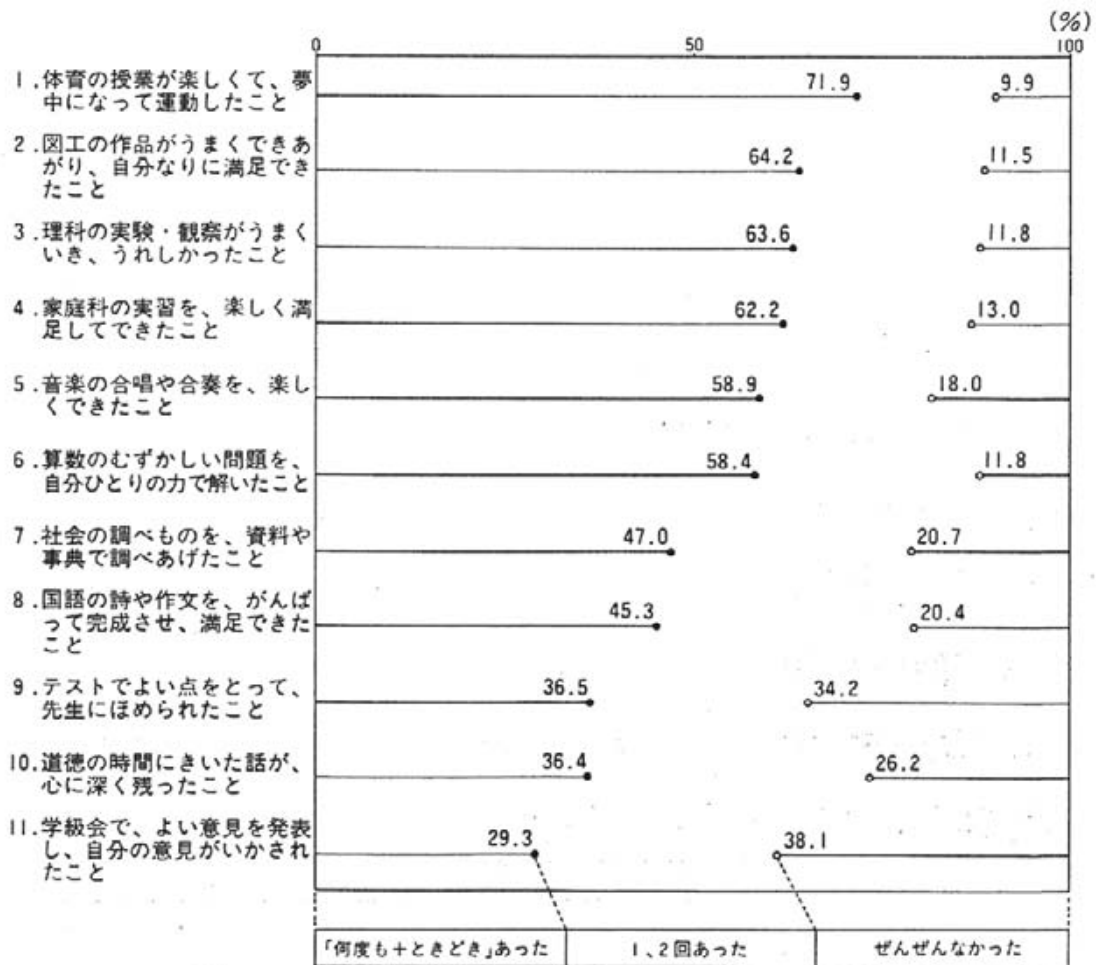
このような中で教師たちは、日々努力を重ね、授業を積み重ねていかなければならない。今日、日本のごく平均的な小学校で、常に授業を成立させているのは、教師ひとりひとりの誠実な努力と良心によるものともいえよう。

さて、このような状況をふまえた上で、さらに授業について見ていくことにしたい。図6は、ふだんの授業中に次のような経験がどのくらいあったかを、たずねた結果である。子どもの意見をまとめるならば、授業中、よく手をあげて発表するし、先生にほめられることもけっこうある。しかし、予習・復習を

して授業にのぞむことはあまりない。授業内容については、やさしすぎることはないが、むずかしすぎてよくわからないことがけっこうあり、指名されてもうまく答えられないこともある。そのためか、早くこの授業が終わってほしいと思い、勉強以外のことをして、遊んでしまうことが多いという。

次に、各教科における満足度の経験をたずねた(図7)。ここでも、教科の好き嫌いと同じように、体育・図工などの満足度が高く、国語・社会・算数などの主要教科の満足度が低い。特に注目したいのが道徳と学級会での

図7 各教科の授業における経験



満足度が非常に低いことであろう。たしかに、週1時間程度の時間数だし、授業展開のむずかしさから考えれば、いたしかたない結果と

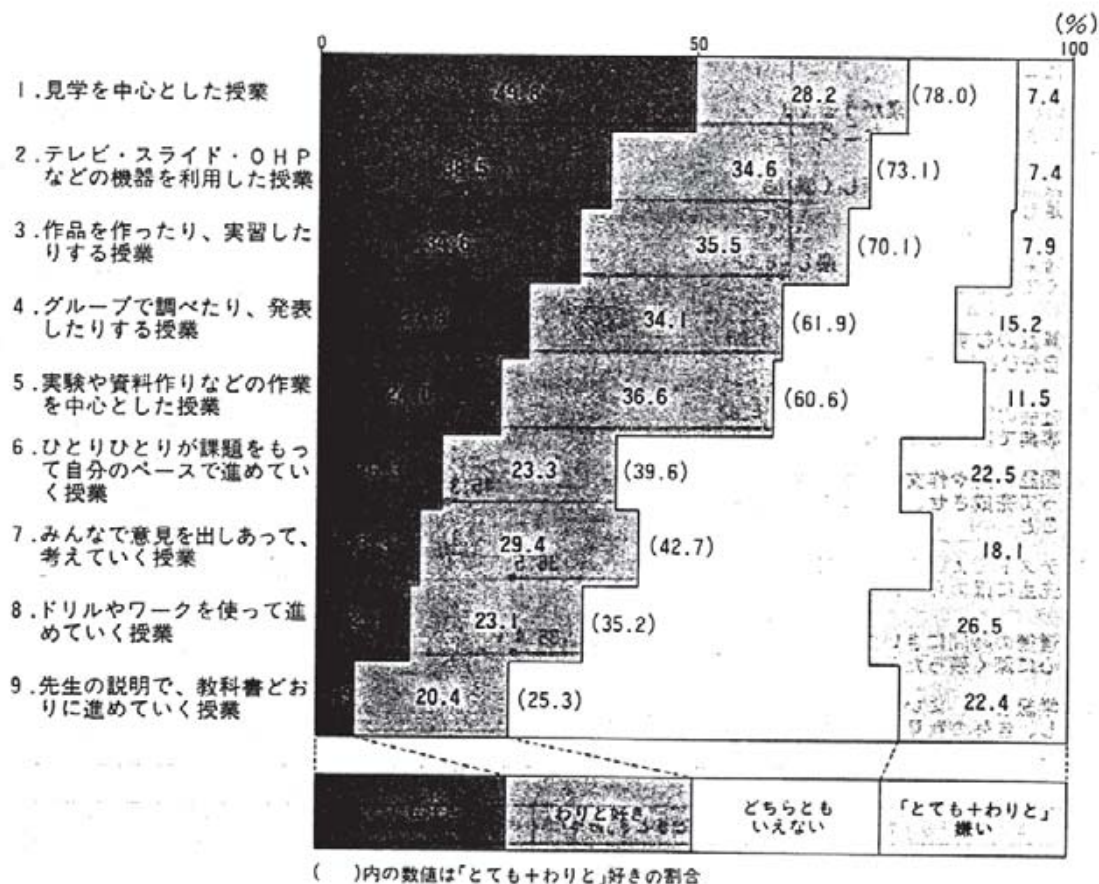
いえようが、今後この領域でも一層の研究が必要とされよう。

## 子どもの好きな授業形態

では、子どもたちはいったいどのような授業形態を望んでいるのであろうか。図8は、9つの授業形態を用意して、その好き嫌いをたずねた結果である。「とても+わりと」好きまでを含めて見ていくと、「見学を中心とした」授業(78%)、「テレビ・スライド・OHPなどの機器を利用した」授業(73%)、「作品を作ったり、実習したりする」授業(70%)などの人気が高く、「グループで調べたり、発表したりする」授業

り発表したりする」授業(62%)や「実験や資料作りなどの作業を中心とした」授業(61%)も、わりと好まれていることがわかる。逆に、「ドリルやワークを使って進めていく」授業(35%)、「先生の説明で、教科書どおりに進めていく」授業(25%)などは、子どもたちにとって、遠慮したい授業形態であることがわかる。

図8 好きな授業形態





## 授業への姿勢

こうした中で、子どもたちはいったいどのようにして実際の授業にのぞんでいるのであろうか。図9は、授業へのぞむときの注意や姿勢をたずねたものである。「机やロッカー、ふで箱の整理」「休み時間中にトイレに行っておく」「チャイムが鳴ったら授業の準備をきちんとする」などが「いつも+わりと」そうするを含めて4割以上に達してはいるものの、「予習や復習をきちんとしておく」子どもは、1割にも満たない現状である。小学生なのはたしかだが、5、6年生にしては、授業を受ける姿勢が少し甘い気もするが、いかがであろうか。

そこで、子どもたちが授業に対してどのくらいまじめに取り組んでいるのかをたずねてみた(図10)。これは、理科・図工・算数・体育の授業で、それぞれおもわしくない結果が出たときの処置、対策をどうするかというかたちでたずねた結果である。友だちや先生の

協力をおおぎながらも、なんとか自分で努力してみようとするものをプラス志向とするならば、プラス志向の割合が体育と理科で約7割、算数で86%、図工で94%と予想以上に前向きに取り組む姿勢がうかがえる。しかし結果がどうであろうと、すぐにあきらめてしまったり、そのままにしてしまう子がそれぞれ1~3割近くいることも気になるところである。この子どもたちの対応を、教師たちはいったいどのようにしているのであろうか。

このように、まじめに取り組む姿勢の目立つ小学校時代であるが、中学校に進むと大きな変化が見られよう。数値的に、かなりの数のドロップアウトをうみ出していく現状があるからだ。そこで、中学校生活を真近にひかえた5、6年生が、不安と期待の中で、中学校での授業が、どうなるのかを小学校生活と比較してもらったかたちでたずねたのが、図11である。「とても+わりと」その割合で

図9 授業へのぞむ姿勢

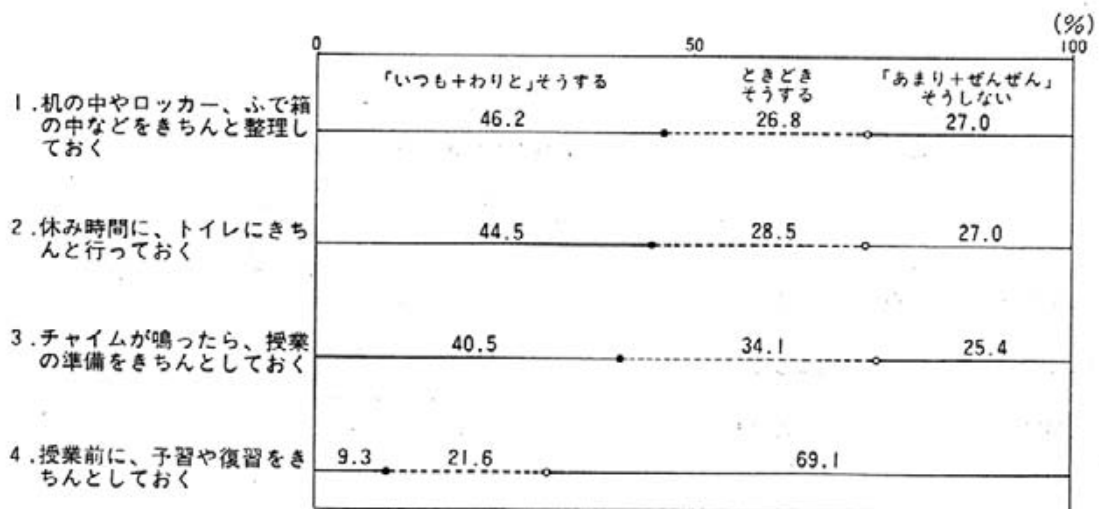
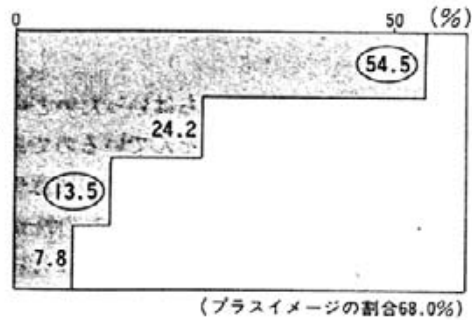


図10 授業後の対応(不満足な結果の処理方法)

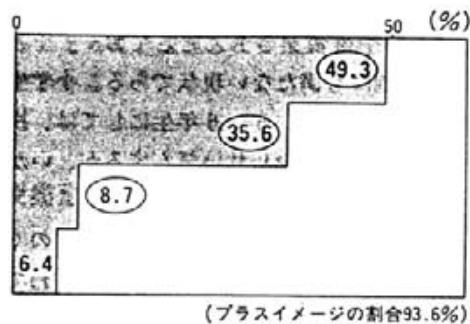
① もし、理科の実験で自分だけ正しい結果がでなかったら ○印は、プラスイメージの項目の割合

1. 友だちや先生に協力してもらい、正しい結果をだす
2. 友だちの結果を参考にして、できたことにしてしまう
3. 先生に言って、もう一度やりなおす(自分ひとりで)
4. すぐにあきらめてしまう



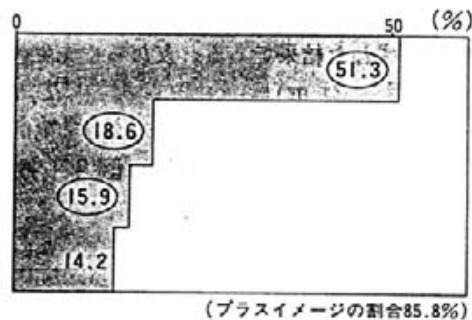
② もし、図工の作品が、時間内にきちんと完成しなかったら

1. 休み時間や放課後に残って、完成させて帰る
2. 家に持って帰って、納得できる作品にする
3. 友だちや先生に協力してもらい、なんとか仕上げる
4. めんどくさいので、そのまま出してしまう



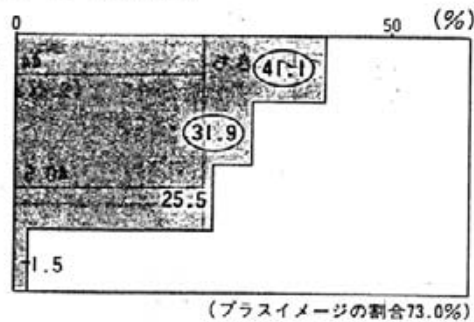
③ もし、算数のテストなどが、クラスの中でもいちばん悪い方の成績だったら

1. 家に帰って、テストの復習と、その勉強をやりなおす
2. 先生にまちがえたところやわからないところを、きちんと教えてもらう
3. 友だちに協力してもらうなどして、次のテストにそなえる
4. あきらめて、そのままにしておく



④ もし、体育の鉄棒やマットの運動が、自分だけきちんとできなかったら

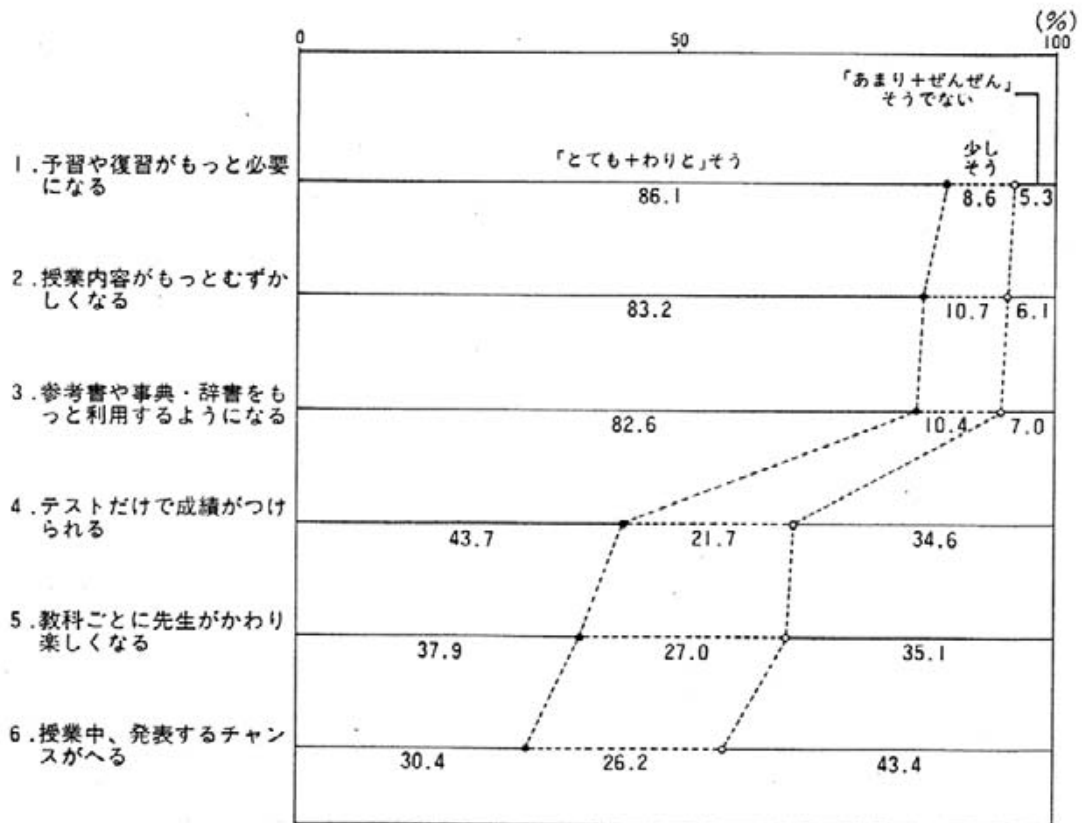
1. 先生や友だちに協力してもらい、できるようになるまでがんばる
2. 家に帰って、自分で練習する
3. できなくても、あまり気にしない
4. 体育は、なるべく休むようにする



見ていくと、中学校での授業は、「予習や復習がもっと必要になる」(86%)、「授業内容がもっとむずかしくなる」(83%)、それに教科書以外の「参考書や事典・辞書をもっと利用するようになる」(83%)というのである。しかし、「発表するチャンスがへる」わけでもなく、「テストだけで成績がつけられる」ことはないと思っているようで、多くの情報を入手しているのであろう彼らの中学校生活

の予想が、きわめて的確であるのに驚かされる。また、中学校では教科ごとに担当の教師がかかるので、小学校とはひと味ちがう授業となろうが、それによって授業内容や勉強が「楽しくなる」と思っている子は、それほど多くはないようだ。なんとなく先生との相性も気になり、不安に思っている子もけっこういるのかもしれない。

図11 中学校での授業の様子



### 3. 授業の周辺



#### ㊦ クラス・教室の様子 ㊦

授業を語る場合、授業そのものを語る人が多い。しかし授業は教師と子どもとの関係に限らず、教室の様子や教師の人柄、子どもたちの人間関係、休み時間の過ごし方などが実際の授業場面に、大きな影響を及ぼしている。そこで、この章では、授業に影響のある、授業の周辺部分が大雑把にあらいだし、簡単に整理しておくことにしたい。

まず、図12は今のクラスになってよかったと思うかをたずねた結果である。男女差、学年差は比較的穏やかで、全体としては7割が現在のクラスに満足している。

そして、そんなクラスの雰囲気は表2から、「明るく楽しい」(86%)、「外で元気に遊ぶ」(60%)といった傾向が強く、「男女の仲」や「先生との信頼関係」はいまひとつであり、「きまりを守る」ことに関しては、ダメな様

子がうかがえる。では、日々子どもたちの生活する教室の様子は、どうであるかというところ(図13)、「掲示物がたくさんはってある」(66%)をトップに「子どもの作品がたくさん展示されている」(48%)、「魚や昆虫などの動物が飼われている」(47%)、「花やはち植えなどの植物がかざられている」(42%)など4割～5割程度と意外に低い。

加えて、子どもたちに掃除当番をさせ、整理整頓を呼びかける教師自身の教室が、子どもたちからは「掃除がいきとどいている」(21%)、「整理・整頓されている」(20%)というように、非常にシビアな評価を受けているのが気にかかる。授業に直接的な影響が出ないまでも、教室の美しい環境作りは、事前に、もしくは子どもとともに、きちんとしておくことが望まれよう。

図12 今のクラスになってよかったか

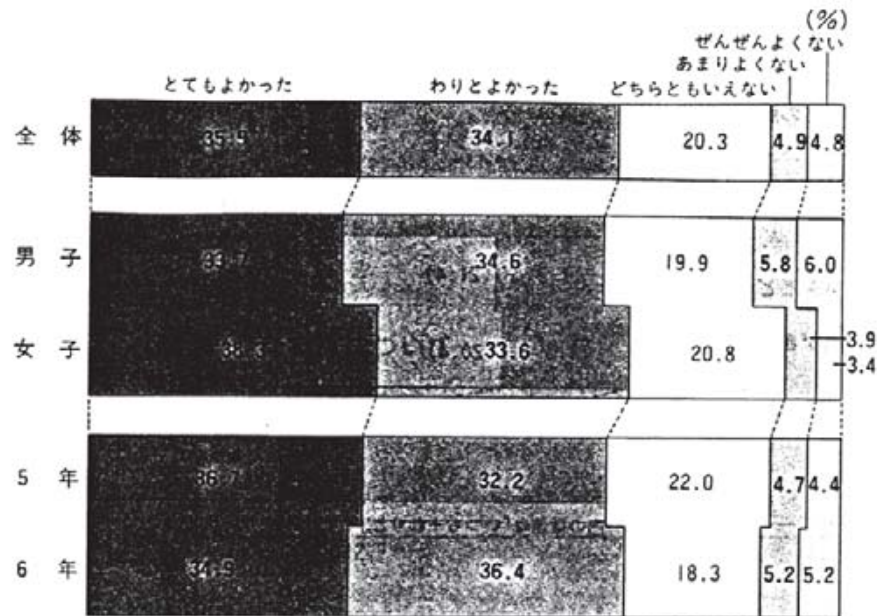
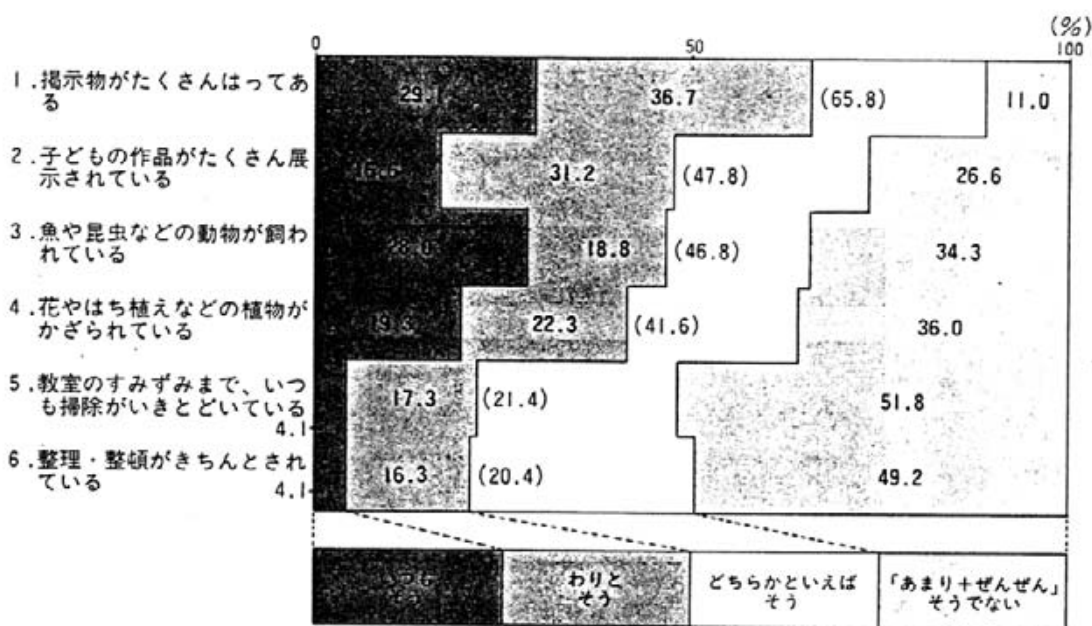


表2 クラスの雰囲気

項目	割合 (%)				
	とてもそう	わりとそう	どちらともいえない	あまりそうでない	ぜんぜんそうでない
1. 明るく楽しい	54.2	31.5	10.9	1.0	2.4
2. 外で元気に遊ぶ人が多い	27.2	32.6	24.3	12.1	3.8
3. 男女の仲がよい	13.6	18.0	32.1	17.1	19.2
4. 先生とみんなの気持ち	10.7	16.1	38.3	20.0	14.9
5. みんなでまわりを守る	6.3	13.5	39.2	28.6	12.4
6. 先生がみんなを守っている	6.3	13.5	39.2	28.6	12.4

図13 教室の様子



( )内の数値は「いつも+わりと」そうの割合

## 先生と自分

ここまで教室やクラスの様子を明らかにしてきたが、今度はその中で暮らす教師と子どもたちのプロフィールを大まかに紹介しておくことにしよう。

このアンケートに答えてくれた子どもたちは図14から、「いつも明るく元気」で、「友だちも多く」、「スポーツは大好き」である。「だれにでも親切」とまではいかないが、少しはそのようだと答えており、「学校の成績」はまあまあとひかえめで、「担任の先生に信頼されている」とは、あまり思っていない。個人差は、相当大きいはずだが、ごく普通の小学生の平均的な自己像は、このようになるといえよう。同じ教室でまる1年も生活する担任教師に自分は信頼されていないと思っており、これは子どもにとっても、教師にとって

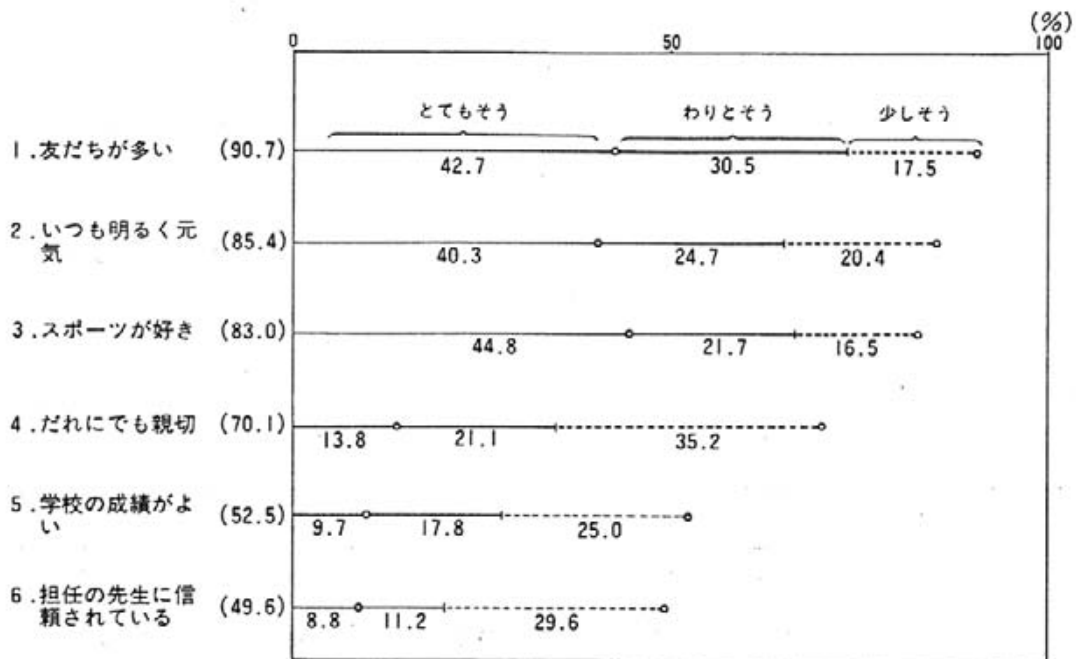
も、なんとも残念な結果である。この原因はどんなことにあるのであろうか、知りたいものである。

そこで、今度は子どもの見た教師の人柄を表3から読みとっていただく。「いつも明るく、楽しい」「知識が豊富」「約束はだいたいの守る」「スポーツが大好き」、そして「みんなに思いやりのある」教師というのが、子どもたちのくだした平均的な教師像といえよう。しかし、「絵や工作」「歌や楽器の演奏」などの芸術面はいまひとつ彩りを欠き、お世辞にも「おしゃれてカッコいい」とは思われていない。そう言えば教室の内外を問わず、ジャージやラフなスタイルで生活する教師が最近多い。たしかに子どもと生活するのであるから、よごれてもよい、動きやすい生活着に自然と

なってゆこうが、「もっとカッコよくしてほしい」とか「いろいろな洋服を着てほしい」といったような子どもたちの意見にも、教師はもう少し耳を傾ける必要があるかもしれない。そうすることによって教師が、子どもたちから好かれ、多少でも尊敬されるようになれば、いわゆる教育効果というものになるのだから。そこで、先生の人柄の評価を、性別、学年別で示した表4を、最後にごらんいただく。全体的に、女子は男子よりも担任教師

を好意的に評価しており、5年から6年に上がるにつれて、否定的に評価していく傾向がわかる。同一クラスを5年生から6年生と続けて受け持つ担任が、さまざまな意味で「2年目は、しんどい」ともらすことが多いが、そんな言葉の要因が、このデータから読みとれるかもしれない。あらためて、5年→6年と続けて受け持つ意義や効果について、もう一度学校サイドで検討する必要があるように思えるのだが、いかがであろう。

図14 自分自身について——プロフィール——



( )内の数値は「とても+わりと+少し」そうの割合

表3 担任の人柄の評価

(%)

	とてもそう	わりとそう	少しそう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1. いつも明るく楽しい	31.5	30.3	21.4	10.2	6.6
	61.8			16.8	
2. いろいろな知識をたくさんもっている	28.0	33.0	21.2	10.2	7.6
	61.0			17.8	
3. 約束は必ず守る	16.1	38.3	23.2	15.0	7.4
	54.4			22.4	
4. スポーツが大好き	32.9	21.2	21.3	16.6	8.0
	54.1			24.6	
5. クラスのひとりひとりに思いやりがある	21.7	28.5	22.8	16.3	10.7
	50.2			27.0	
6. 絵や工作がうまい	17.1	21.5	26.4	22.1	12.9
	38.6			35.0	
7. 歌や楽器の演奏がうまい	13.2	14.8	25.7	31.2	15.1
	28.0			46.3	
8. おしゃれでカッコいい	7.6	13.5	20.6	28.3	30.0
	21.1			58.3	

表4 担任の人柄の評価(性別・学年別)

(%)

	男子	女子	5年生	6年生
1. いつも明るく楽しい	57.6	< 66.7	67.5	> 55.0
2. いろいろな知識をたくさんもっている	58.3	< 63.9	69.7	> 50.3
3. 約束は必ず守る	53.5	55.6	61.5	> 45.8
4. スポーツが大好き	54.5	53.5	63.5	> 42.6
5. クラスのひとりひとりに思いやりがある	46.2	< 54.7	52.9	> 46.8
6. 絵や工作がうまい	37.1	40.2	39.7	37.2
7. 歌や楽器の演奏がうまい	25.1	< 31.5	27.4	28.8
8. おしゃれでカッコいい	19.8	22.6	23.4	> 18.3

「とても+わりと」そうの割合  
(不等号は5%を単位として差をあらわす)



## 4. 教師と授業とのかかわり



### 〰 担任の授業の評価 〰

ここまでは、授業そのものを中心に論じてきたが、やはり授業を語る場合、教師を抜きにして語ることは不可能であろう。つきつめて言うならば、授業は教師そのものといってもよいのだから。この章では、さまざまな要因をふまえながらも、教師と授業とのかかわりについて、授業を通しての教師の評価に視点を置き、今後の授業の課題や指標を明確にすべく授業論を展開してみたい。

はじめに、サンプルの子どもたちと担任教師との関係をはっきりさせておくことにしよう。図15が示すように、現在の担任に受けもたれて1年目の子が、5年生で83%、6年生になると2年目が67%で、6年生の担任のほとんどが5年生のときからのもち上がりであることがわかる。クラスについても同様に、5年生は92%が1年目のクラス、6年生では

75%が2年目となっている(図16)。

こうした担任とクラスの間を背景に、子どもたちは担任教師の授業をどのように評価しているのであろう。図17は、担任の授業が好きかをストレートにたずねた結果である。

全体としては、5割強が「好き」と答えており、「好きでない」と答えた16%を大きく上回っている。しかし、「どちらともいえない」が30%と、多少の含みを残しており、この数値は教師にとって少々考えさせられる。性別、学年別では、男子よりも女子が、6年生よりも5年生の方が、先生を「好き」である割合が高いことがわかる。

それでは、授業のうまさについてはどうであろう。授業におけるうまさとは何かを問題にすれば、かなりむずかしい。子どもと教師とでは、とらえ方や評価の仕方が相当違うで

あろうし、何がうまいのかなどもはっきりさせねばならない。しかし、ここではそのようなむずかしい見方よりも、素朴な子どもの判断をもとに、担任教師の授業に対する意気込みや熱心さ、楽しくわかりやすく教えてくれる力量などと考えていただきたい。

図18では、「とても+わりと」うまいを含めて、全体の6割が担任の授業を高く評価していることがわかる。この数値が、高いか低いかは判断がむずかしいが、「うまくない」と答えている13%を相当上回っていることが理解できよう。また、ここでも女子は男子よ

りも好意的で、「うまい」と評価している割合が高く、6年生になると5年生に比べて、10% (65%→55%) も評価が下がっている。

6年生くらいになると、教師や授業に対してかなり否定的にきびしく見る様子が見えてくる。そこで今度は、授業の中身について見ていくことにしたい。図19は、授業における教師の評価をたずねた結果である。「とても+わりと」そうの割合で見ると、教師は、「漢字の書き取りや計算テスト」をよくしてくれ (69%)、「提出したノートや作文にいつも赤ペンを入れてくれる」(68%)、「授業以

図15 今の担任に受けもたれている年数

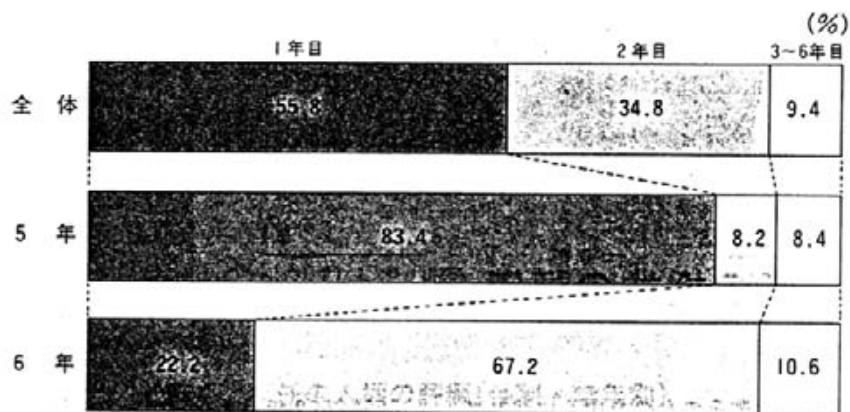
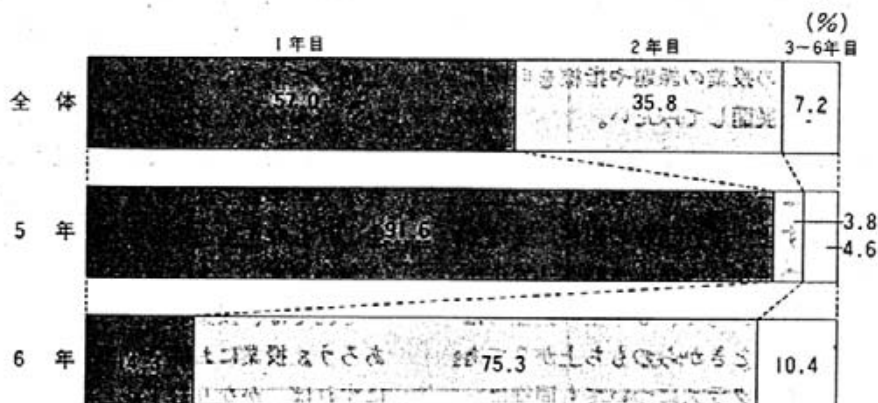


図16 今のクラスになってからの年数



外の楽しい話や体験談などもよくしてくれる(61%)ようであり、さらに、「わかりやすい説明に心がけ」(59%)、「板書を見やすく書き」(57%)、「ひとりひとりの子どもを大切に教えて」(50%)努力をいつもしている様子が読みとれる。しかし、「体育などの手本」は、あまり見せてくれないし、「OHP・スライド・ビデオなどの機器」を授業で活用させることが少ないと評価している。

次に、授業を離れたところでの評価はどうであろう。図20をまとめると、宿題をよく出し、日記や作品をきちんと見てくれ、きまりや規則についてもいつもきびしい態度で接している。しかし、給食は一人教卓で食べ、外

でいっしょになって遊んでくれることは少ないという。日本の教師は、普段忙しくて、子どもと接する時間や教材研究する時間がもっとほしいと思っており、今の学校の体質や制度が子どもにとっても教師にとっても、何となく不幸な結果を導き出している様子がうかがえよう。

そして図21は、担任教師の授業内外における評価を、学年別で示したものであるが、先にも触れた通り、6年生の教師に対する評価のきびしさがよくわかる結果である。行事に追われ、評価のきびしい6年生の担任を、教師たちがあまりやりたがらないのもうなずけるであろう。

図17 担任の授業は好きか

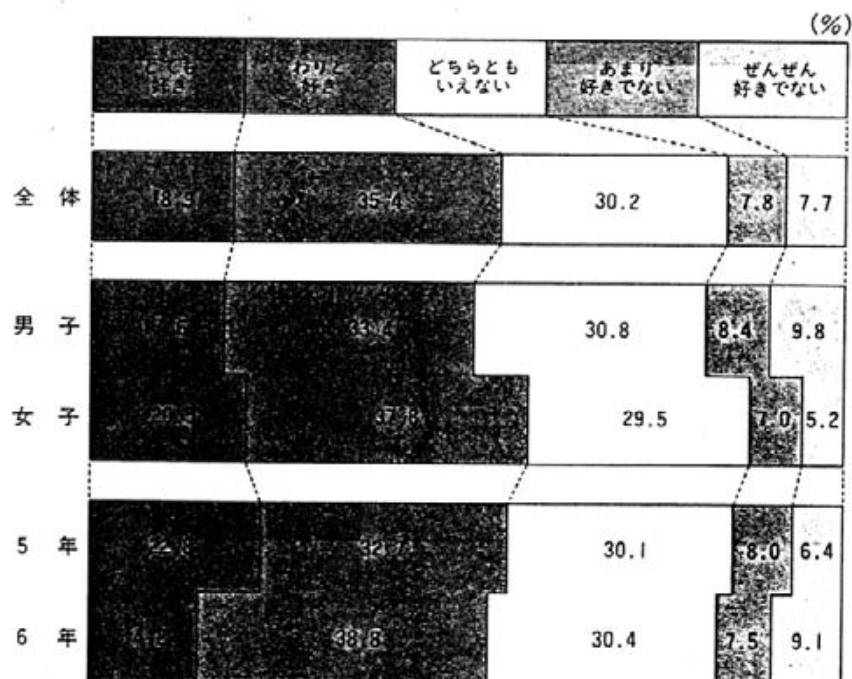


図18 担任の授業のうまさ

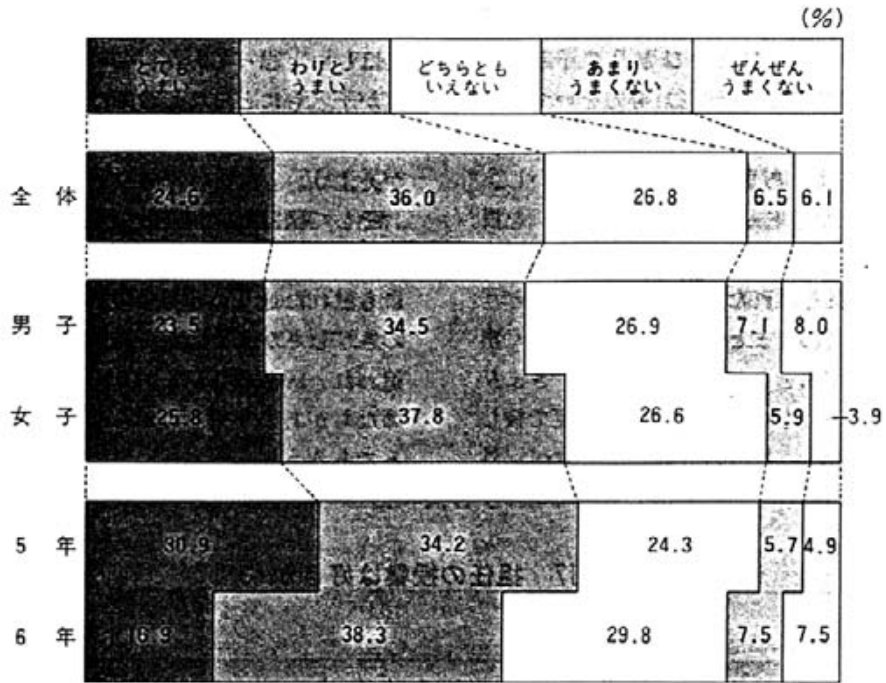


図19 担任の授業における評価

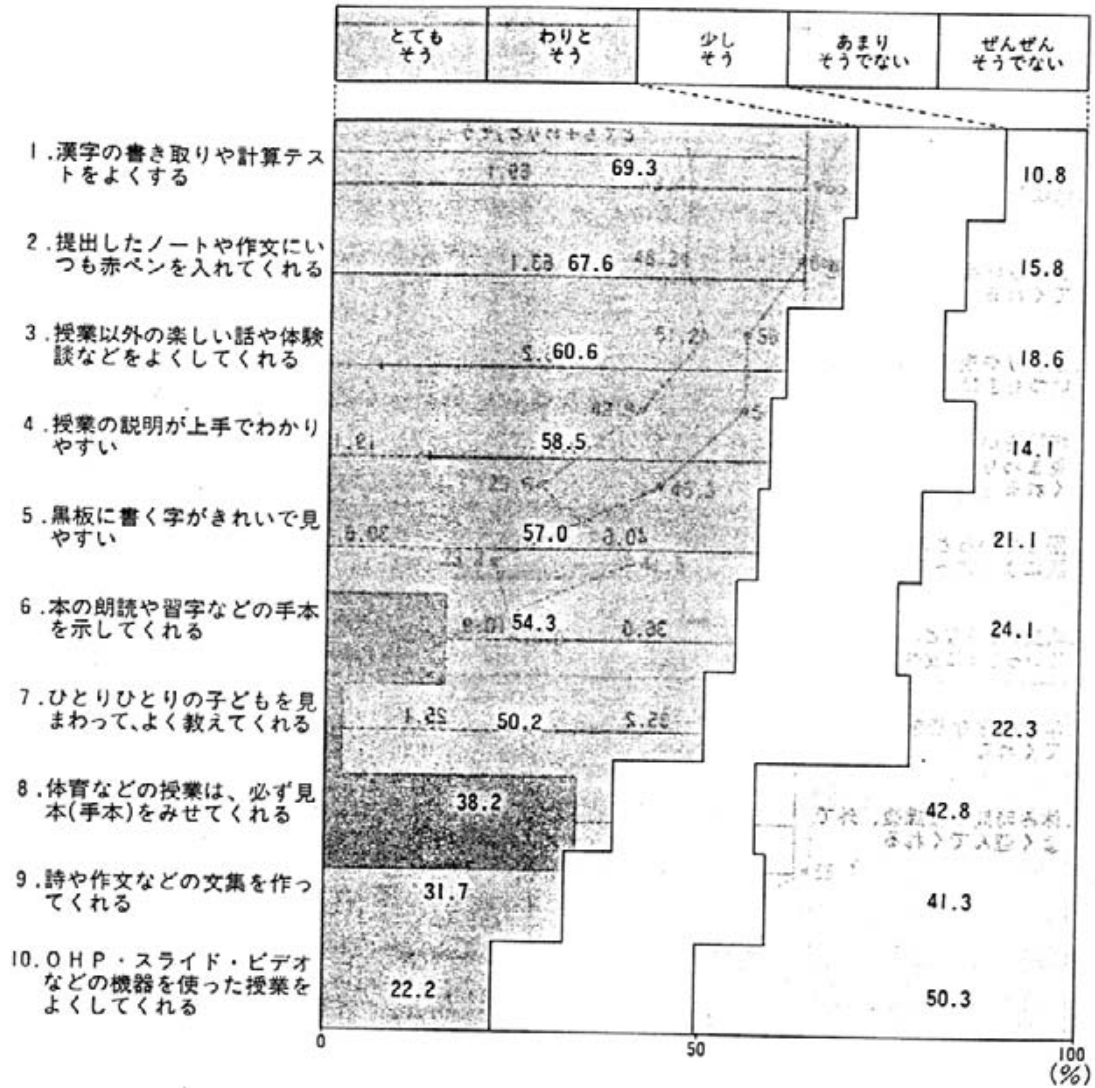


図20 担任の授業外における評価

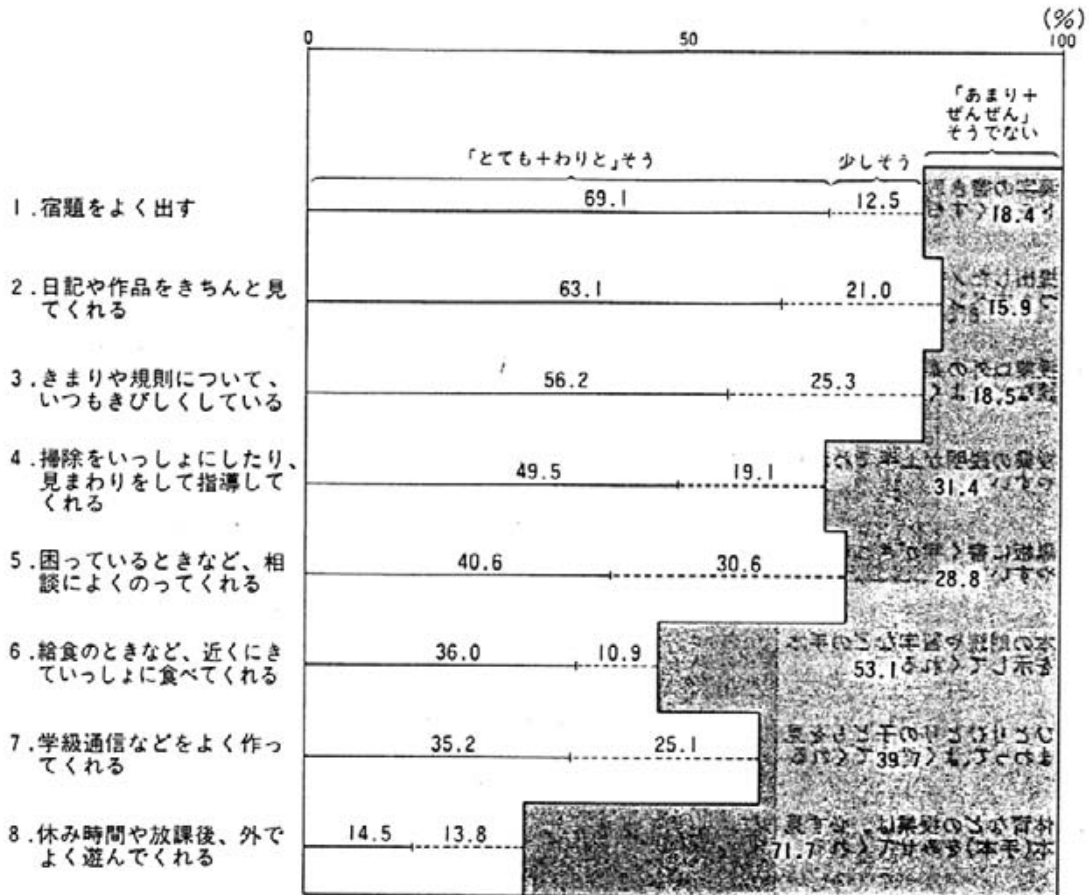
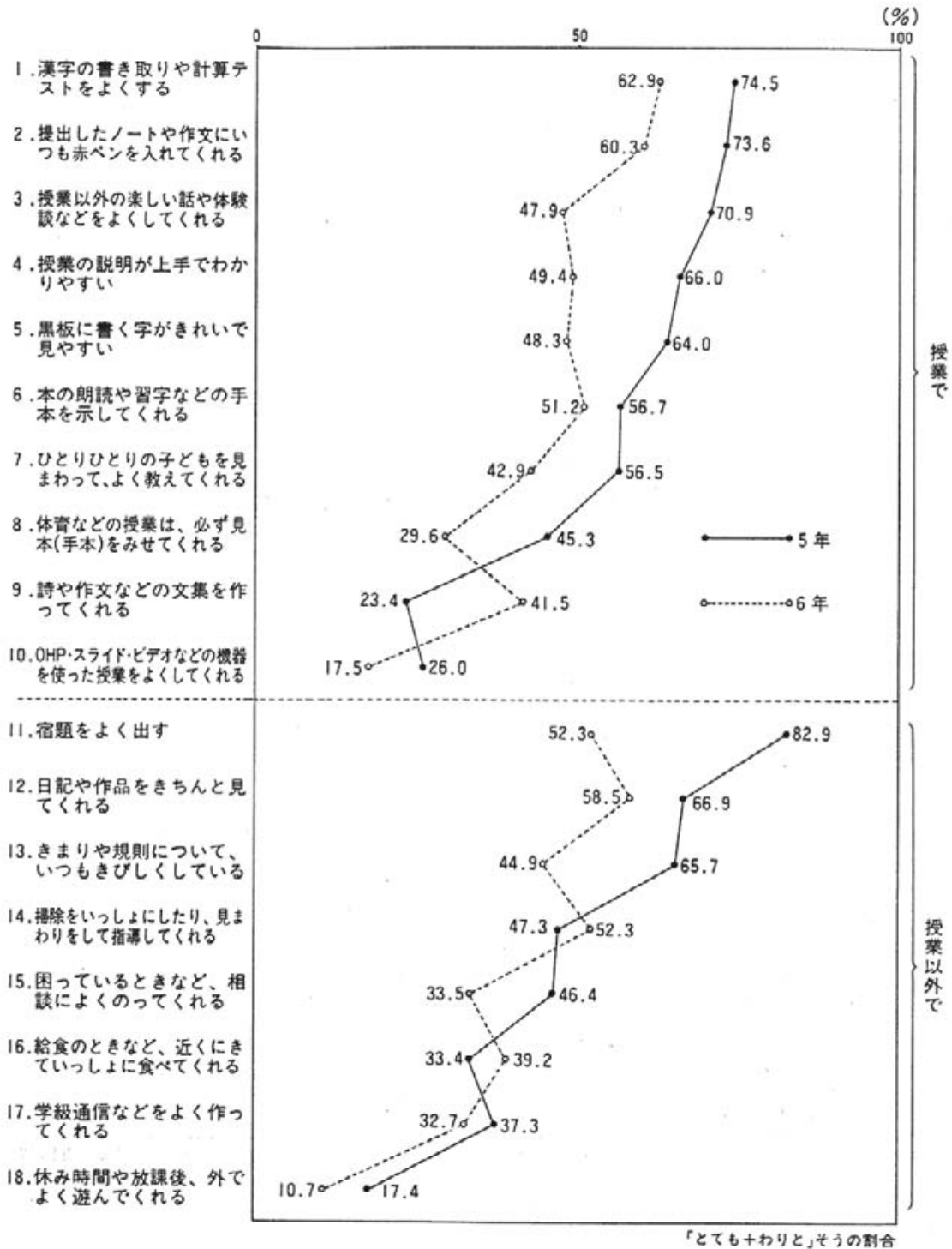


図21 担任の授業内外における評価(学年別)



## 担任の性差・年代差の影響

最後に、授業と教師のかかわりについてをまとめるかたちで、教師の性別、年代別及び授業のうまさによるタイプ別による授業の評価を紹介しておこう。

表5は、先生の人柄に対する評価を、性別、年代別で比較した結果である。男性教師は圧倒的にスポーツが、女性教師は絵や工作、歌や楽器の演奏に評価が高い。また年代別では、

年齢の近さからであろうか、20代教師の人気や評価が高い。表5の項目の言葉を借りてまとめるならば、人気が先行しているものの、明るく楽しい20代教師、約束は必ず守る30代教師、子どもの評価のきびしい40代教師、知識が豊富な50代教師の姿が浮かび上がってくる。

同様に表6は、授業外での比較である。給食を近くていっしょに食べたり、外でよく遊

表5 担任の人柄の評価(担任の性別・年代別)

	男の先生	女の先生	20代の先生	30代の先生	40代の先生	50代の先生
1. いつも明るく楽しい	64.6	60.4	81.7	66.4	56.3	48.8
2. いろいろな知識をたくさんもっている	60.4	61.9	61.5	64.1	56.1	64.6
3. 約束は必ず守る	53.1	56.4	60.1	62.0	46.5	53.8
4. スポーツが大好き	69.7	39.3	79.7	58.0	43.2	56.3
5. クラスのひとりひとりに思いやりがある	49.3	51.0	58.1	51.9	49.2	33.8
6. 絵や工作がうまい	34.9	41.9	51.1	36.5	35.3	38.8
7. 歌や楽器の演奏がうまい	22.3	32.8	35.3	30.9	26.6	8.8
8. おしゃれでカッコいい	23.0	19.4	36.1	24.4	16.3	12.6

「とても+わりと」そうの割合

不等号は5%を単位として差をあらわす(性別)

○印はその項目の最大値を示す

〰印はその項目の最小値を示す(年代別)



んでくれる男性教師に対して、女性教師は掃除をきちんと見まわり、日記や作品をていねいにチェックし、宿題もよく出す割合が高い。年代別に比べると、人気先行の20代教師は、掃除や外遊びをいっしょにし、子どものよき相談相手にもなるものの、宿題はあまり出さず、きまりや規則についてもあまりきびしくはないようだ。逆に、50代教師は宿題をよく出し、規則やきまりについてきびしいと評価されている。

では、肝心の授業ではどうであろう。表7からわかるように、男性教師は、体育の手本

を見せ、授業以外の楽しい話や体験談などをよくしてくれる。女性教師は、板書がきれいで、朗読や習字の手本も上手に示してくれる割合が高い。年代別では、体育の手本を見せてくれるが、板書のきたない20代教師、OHPなどの機器を利用し、ノートや作文に赤ペンを入れてくれる30代教師、板書がきれいで、朗読や習字の手本も示し、書き取りや計算テストをよくする50代教師の姿が浮かび上がる。そして、ここでも意外に40代教師の評価が低いのに驚かされる。

表6 担任の授業外における評価(担任の性別・年代別)

(%)

	男の先生	女の先生	20代の先生	30代の先生	40代の先生	50代の先生
1. 宿題をよく出す	62.6 <	75.0	45.4	83.9	60.0	93.8
2. 日記や作品をきちんと見てくれる	59.4 <	66.6	51.0	71.5	61.4	57.6
3. きまりや規則について、いつもきびしくしている	55.5	57.6	52.4	57.1	53.1	73.4
4. 掃除をいっしょにしたり、見まわりをして指導してくれる	42.6 <	56.0	71.5	47.2	53.9	8.8
5. 困っているときなど、相談によくのってくれる	41.5	39.2	44.9	38.7	40.7	40.1
6. 給食のときなど、近くにきていっしょに食べてくれる	43.8 >	28.0	28.7	47.7	36.0	8.8
7. 学級通信などをよく作ってくれる	33.2	36.7	27.4	36.5	39.0	17.5
8. 休み時間や放課後、外でよく遊んでくれる	27.0 >	2.4	28.4	19.8	7.2	15.1

「とても+わりと」その割合  
不等号は5%を単位として差をあらわす(性別)

○印はその項目の最大値を示す  
〰印はその項目の最小値を示す  
(年代別)

表7 担任の授業における評価(担任の性別・年代別)

(%)

	男の先生	女の先生	20代の先生	30代の先生	40代の先生	50代の先生
1. 漢字の書き取りや計算テストをよくする	73.8 >	65.6	68.8	71.2	64.0	90.0
2. 提出したノートや作文にいつも赤ペンを入れてくれる	65.3	65.9	61.2	71.9	67.8	63.8
3. 授業以外の楽しい話や体験談などをよくしてくれる	64.8 >	57.3	70.6	72.8	50.1	61.3
4. 授業の説明が上手でわかりやすい	57.0	60.3	62.4	62.1	53.4	60.1
5. 黒板に書く字がきれいで見やすい	47.7 <	65.0	43.5	61.0	52.2	76.3
6. 本の朗読や習字などの手本を示してくれる	50.0 <	57.9	58.3	50.9	49.7	78.8
7. ひとりひとりの子どもを見まわって、よく教えてくれる	50.0	49.3	55.1	57.4	44.4	44.3
8. 体育などの授業は、必ず見本(手本)をみせてくれる	56.5 >	21.1	63.3	42.8	29.6	35.1
9. 詩や作文などの文集を作ってくれます	32.4	29.6	40.3	32.0	34.1	8.8
10. OHP・スライド・ビデオなどの機器を使った授業をよくしてくれる	23.7	20.0	14.7	32.7	18.9	10.1

「とても+わりと」そうの割合  
不等号は5%を単位として差をあらわす(性別)

○印はその項目の最大値を示す  
〰印はその項目の最小値を示す  
(年代別)

## 授業のうまい教師の評価

そこで最後に、授業のうまさとその評価についての相関を見ていくことにしたい。

まず表8をごらんください。これは、授業のうまさを5タイプに分けて、担任の性別、年代別で比較してみた結果である。「とてもうまい」のは女性教師に多いようだが、「わりとうまい」までを含めると、男性教師の評価が高く、授業のうまさにおいては、男女の差は、あまり問題にならないようだ。

また、50代教師の「とてもうまい」という

評価が41%にもものほり、ベテラン教師の年齢を感じさせる結果である。同様に、表9、表10は、授業における評価を授業のうまさをスケールにして分けた5タイプでの比較であるが、どの項目でも、授業のうまい教師の評価が抜群に高いことがわかる。授業がうまいから、このような評価につながるのだろうが、逆を言えば、どの教科においても、さまざまな場面で、担任教師がよく努力して指導していることが、授業のうまい教師という評価に

つながっているのであるとも言える。

表11が示すように、授業のうまくない教師に受けもたれた子どもは、早くこの授業が終わってほしいと思い、勉強以外のことをして遊んでいる割合が高くなるが、授業のうまい教師に受けもたれた子どもは、このまま続けて勉強したいと思い、授業の後もいろいろと調べに行く。そして、授業中は、よく手をあげ、先生にほめられる割合もぐんと高くなっていくことに気づく。そうした意味で、いかに担任教師の力量が、子どもたちの成長を大きく左右するかが見えてくる。さらに、そうした中で生活を続けていくことによって、クラスの雰囲気も、授業のうまい教師のクラスと、そうでない教師のクラスとは、ぜんぜん

ん異なってくるのが表12から理解されよう。授業のうまさひとつでも、こんなにも子どもたちやクラスに影響があるのかと思うと、本当に恐しい気がしてくる。そうした意味で、われわれ教師は、常に子どもの幸福な成長を頭におき、日々授業の腕を磨いていかねばならないであろう。授業で勝負する教師とは、きっと授業以外での学校生活全般にわたっても、評価の高い教師に違いないであろう。言うならば、授業を通して、教師の全人格を形成していく試みに他ならない。そこへ向かう態度や意欲が教師自身を高め、同時に子どもたちも高めていくことが本来の授業の目標のような気がしてならないからだ。

表8 (担任の授業のうまさ)×(担任の性別・年代別)

(%)

性別・年代別	授業のうまさ とてもうまい	わりとうまい	どちらとも いえない	あまり うまくない	ぜんぜん うまくない
男の先生	22.6	40.4	26.0	6.0	5.0
	63.0			11.0	
女の先生	26.8	31.5	27.5	7.1	7.1
	58.3			14.2	
20代の先生	26.3	44.3	17.5	6.4	5.5
	70.6			11.9	
30代の先生	25.9	34.6	27.8	5.3	6.4
	60.5			11.7	
40代の先生	19.5	35.9	31.5	7.9	5.2
	55.4			13.1	
50代の先生	41.3	23.8	16.1	6.3	12.5
	65.1			18.8	

表9 (担任の授業のうまさ)×(授業における評価)

(%)

授業における評価	授業のうまさ				
	とても うまい	わりと うまい	どちらとも いえない	あまり うまくない	ぜんぜん うまくない
1. 漢字の書き取りや計算テストをよくする	79.9	73.3	59.0	64.8	53.0
2. 提出したノートや作文にいつも赤ペンを入れてくれる	83.7	71.3	56.7	62.3	34.0
3. 授業以外の楽しい話や体験談などをよくしてくれる	78.8	66.2	49.1	42.6	26.0
4. 授業の説明が上手でわかりやすい	92.1	84.2	26.9	24.1	10.0
5. 黒板に書く字がきれいで見やすい	78.8	76.8	37.7	37.1	14.0
6. 本の朗読や習字などの手本を示してくれる	76.8	62.8	35.6	29.7	20.0
7. ひとりひとりの子どもを見まわって、よく教えてくれる	79.4	50.5	33.3	29.6	22.0
8. 体育などの授業は、必ず見本(手本)をみせてくれる	52.7	44.5	39.3	16.9	12.0
9. 詩や作文などの文書を作ってくれる	38.6	38.4	21.7	27.8	14.0
10. OHP・スライド・ビデオなどの機器を使った授業をよくしてくれる	28.6	23.5	16.1	20.4	18.0

「とても+わりと」その割合  
 ○印はその項目の最大値を示す  
 ~印はその項目の最小値を示す

表10 (担任の授業のうまさ)×(各教科の授業における経験)

(%)

各教科の授業における経験	授業のうまさ				
	とても うまい	わりと うまい	どちらとも いえない	あまり うまくない	ぜんぜん うまくない
1. 体育の授業が楽しくて、夢中になって運動したこと (5.28)	82.0	73.2	67.8	61.1	55.1
2. 図工の作品がうまくできあがり、自分なりに満足できたこと (1.22)	78.4	64.6	57.4	62.3	41.7
3. 理科の実験・観察がうまくいき、うれしかったこと (8.22)	76.2	65.9	55.0	58.4	46.9
4. 家庭科の実習を、楽しく満足してできたこと (8.22)	78.3	60.9	56.2	49.0	53.0
5. 音楽の合唱や合奏を、楽しくできたこと (3.12)	75.0	61.4	48.4	43.4	46.8
6. 算数のむずかしい問題を、自分ひとりの力で解いたこと (1.02)	74.3	56.3	48.6	61.1	51.0
7. 社会の調べものを、資料や事典で調べあげたこと (4.22)	59.4	52.2	33.8	42.6	31.2
8. 国語の詩や作文を、がんばって完成させ、満足できたこと (2.22)	64.8	45.7	31.5	42.6	30.6
9. テストでよい点をとって、先生にほめられたこと (4.22)	50.1	40.4	24.3	30.1	24.5
10. 道徳の時間にきいた話が、心に深く残ったこと (1.02)	59.4	35.8	24.5	17.3	20.4
11. 学級会で、よい意見を発表し、自分の意見がいかされたこと (3.22)	40.1	28.0	19.2	34.0	28.5

「何度も十とときどき」あった割合  
○印はその項目の最大値を示す

表11 (担任の授業のうまさ)×(授業中の経験)

(%)

授業中の経験	授業のうまさ				
	とても うまい	わりと うまい	どちらとも いえない	あまり うまくない	ぜんぜん うまくない
1. 早くこの授業が終わってほしい と思ったこと	70.0	70.4	83.3	92.6	83.6
2. むずかしくて、よくわからな かったこと	66.9	66.7	66.1	63.0	60.0
3. 自分から進んで手をあげて発言 したこと	78.8	61.7	56.8	62.9	60.0
4. 授業が楽しくて、次の時間も続 けて勉強したいと思ったこと	80.6	69.2	49.8	47.2	40.0
5. 先生にさされたけど、うまく答 えられなかったこと	59.2	61.6	61.6	66.7	40.0
6. 先生にほめられて、うれし かったこと	75.6	62.2	46.1	44.4	40.0
7. 勉強以外のことをして、遊んで いたこと	50.5	51.0	54.1	61.1	65.3
8. 予習してあったので、先生にさ してほしかったこと	61.9	42.6	35.5	43.4	26.0
9. 授業内容がやさしすぎて、つま らないと思ったこと	37.8	28.9	34.4	30.2	63.3
10. 授業のあとに、本や事典でくわ しく調べたこと	48.0	24.9	20.1	34.0	20.0

「何度も+ときどき」あった割合  
○印はその項目の最大値を示す

表12 (担任の授業のうまさ)×(クラスの雰囲気)

(%)

授業のうまさ クラスの雰囲気	とても うまい	わりと うまい	どちらとも いえない	あまり うまくない	ぜんぜん うまくない
1. 明るく楽しい	93.1	89.9	82.3	72.2	61.3
2. 外で元気に遊ぶ人が多い	74.4	62.3	49.6	48.1	42.9
3. 男女の仲がよい	46.5	27.7	22.2	28.3	38.8
4. 先生とみんなの気持ち がひとつになっている	51.0	28.5	10.0	13.4	6.1
5. みんなでまわりを守る	32.0	20.7	10.9	17.1	12.2

「とても+わりと」そうの割合  
○印はその項目の最大値を示す



## まとめに代えて

この調査を実施するにあたり、調査をお願いした学校・教師サイドから、いくつかのクレームがついた。調査項目の中にある、担任教師の「授業のうまさ」や「授業の好き嫌い」、「教師の能力」などをきく部分が、特にまずいと言うのである。たしかに、その担任が傷つくかもしれないし、学校の立場も理解できるので一概には言えないが、どうして自分の授業についての子どもたちの意見に耳を傾けようとしないのであろうか。本来、研究とか分析とかいうものは、そこからスタートしていくべきものではないだろうか。

国際比較の調査を行っているので、アメリカの学校でアンケートへの協力を求めることがあった。その折、「担任が好きか」という項目を入れておいたので、日本の反応を思い出してこの項目についての感想を求めた。

“ノウ・プロブレム”といういかにもアメリカ人らしい明るい反応が戻ってきた。ところが、その下の項目をみて、ストップをかけた。「あなたは、お母さん（お父さん）が好きですか」の質問である。

意味がわからないので、どうして教師に対する評価がよくて、父母がいけないのかとそ

の理由をたずねてみた。

子どもたちの教師評価に耳を傾けるのは教師としての責務であろう。しかし、子どもが親を好きかどうかは家庭のプライバシーに属し、学校として、タッチすべきでないというのが、先生方の反応であった。

実をいうと、筆者はこれまでも先生方が、子どもからの評価を拒否するのはおかしいと思っただけに、アメリカの教師の反応に納得できるものを感じた。

考えてみると、学校で研究授業を実践しても、多くの研修会にのぞんでも、自分の授業の良し悪しが、子どもたちにどう思われているのかをはっきり認識した上でなければ確かな成果が得られないはずである。とかく閉鎖的な社会で、教師の保守的な体質や制度が、マイナスにはたらくことのないように、日々多方面からの意見や新しい感覚をとり入れてほしいと思った。

いずれにせよ、先生方が授業を大事にするというのであるなら、授業を聞く当事者ともいべき子どもの声に耳を傾けることがなによりも必要だし、それが、授業研究の出発点のように感じられてならない。